

Ⅲ グループホーム清久

令和4年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和5年3月31日現在

事業名	定員	利用率
共同生活援助	定員44名	88.3%
短期入所	定員1名	73.8%

(2) 入居者の状況

ア 定員内訳

()カッコは短期入所の人数

	清久	ハイツ	上清久	こがらい	おぎそね	こすもす	うちや	しらはた	こぎそね	合計
定員	7名	3名	4名	7名	7名	4名	4名 (1名)	7名	1名	44名 (1名)
現員	5名	3名	4名	7名	7名	4名	4名 (1名)	7名	1名	42名 (1名)

イ 男女比・年齢構成

	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	合計
男性	2	5	6	10	1	3	2	29
女性	0	0	0	4	3	6	0	13

ウ 平均年齢

	平均年齢（男女別）	平均年齢（全体）
男性	53.3歳	56.6歳
女性	65.3歳	

2 重点実施事項

(1) 高齢化、重度化対策

ア 入浴時の転倒防止策として浴室に手すりの設置をしました。

イ 介護保険サービスの利用を希望している利用者に対し要介護認定を取得できるように支援するとともに、日頃から病院やケアマネージャーと連携を図り、必要な時に介護保険サービスが利用できるように努めました。

(2) 老朽化したホームの整備と今後の活用方法の検討

法人本部との話し合いの結果、利用者の住み慣れた環境での生活を重視し、老朽化した既存のホームを整備しながら継続して活用していく方針としました。

(3) 権利擁護、虐待防止の意識向上

権利擁護、虐待防止に関する内部研修及び外部研修に参加し、権利擁護、虐待防止の意識向上に努めました。また定期的に職員会議やケース検討会議を

開催し、利用者支援や障害特性について理解を深めることができました。

3 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

(ア)日々の生活の中で、利用者の要望を個別支援計画に位置付け、生きがいある生活が送れるように支援しました。

(イ)サテライト型住居において単身生活を望まれる利用者については、自立した生活が送れるように支援センターと協力しながら支援することができました。来年度早々に単身生活に移行できる予定です。

イ 健康管理

(ア)食生活については、外部の配食サービスを利用しながら、個々の食事量に配慮したバランスの良い食事を提供することができました。

(イ)近隣を定期的に歩行したり、個々で運動機器や筋トレ機器を購入し、体を動かす機会を増やすことで、心身ともに健康な生活が送れるように支援しました。

ウ 余暇活動の充実

(ア)コロナ禍でも有意義な生活ができるよう感染対策を行いながら、利用者が希望する映画外出や歌手のコンサートに行く機会を作りました。

(イ)陶芸教室等のサークル活動へ参加し、趣味を生かした余暇活動の充実を図りました。また、利用者の中には、自分で描いた絵を展覧会に出展することができ、日々のモチベーションにつなげることができました。

エ 高齢化、重度化対策

(ア)利用者1名の要介護認定を取得しました。今後サービスが利用できるように支援します。

(イ)高齢の家族については、入院時の手続きが難しいため、身元保証サービスについて説明し、2名の利用者が契約しました。

(ウ)医療的支援を要する利用者に対して、訪問看護を利用し、日々の健康管理に努めました。入退院を繰り返す利用者については、病院のソーシャルワーカーや居宅介護事業所のケアマネージャーと連携し、ホーム受け入れ体制を整えました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 一人仕事が多いため、各職員が仕事を抱え込み、オーバーワークにならないよう、勤務状況を確認しながら協力体制を整えました。

イ 職員の不安やストレスをため込まないように、直接ホームに行き話を聞く機会を設けたり、携帯電話を利用し、相談にのる機会を設けました。

(3) 人材育成

ア 埼玉県主催のグループホーム職員研修に世話人4名がオンラインにて参加し、基礎的な権利擁護と虐待防止について学びました。県研修に参加できなかった職員については、県研修に講師として参加した職員が類似した研修を

事業所内で実施しました。

- イ ホーム担当者職員中心に世話人を含めたホーム会議を開催し、現場の課題やニーズの共有を図り、課題に対する対策を検討しました。普段一人仕事が多いので、話し合いの機会をもつことで、共通認識のもと支援を行うことができました。

研修実績

< 法人内部研修 >

研修名	内容	日時	場所	参加者
身体拘束・虐待防止研修	虐待防止の説明と身体拘束について	11月～1月の間で視聴	リモート	全員
世話人研修	消極的権利擁護と積極的権利擁護	12/26	久喜けいわ機能訓練棟	16名
虐待防止研修	事例を通して適切な支援を学ぶ。	1/23 1/31	久喜けいわ機能訓練棟	6名
事例検討会	G S Vを使用したケース検討	2/14	いちょうの木	3名
A E D研修	心肺蘇生とA E Dの使用	2/24	久喜けいわ機能訓練棟	3名

< 法人外部研修 >

研修名	内容	日時	場所	参加者
サビ管基礎研修	個別支援計画のプロセス管理	9/5 6	オンライン	1名
虐待防止研修	虐待防止の説明	11/2	おおとり	1名
虐待・身体拘束講義	虐待防止と身体拘束の概要	11/10	オンライン	全員
グループホーム職員研修	不適切な事例と虐待防止の説明と実態	12/1 13 22 1/11	オンライン	10名
サビ管更新研修	サビ管業務の振り返り	2/10	オンライン	1名
セルフモチベーション研修	モチベーションのあげ方	2/24	オンライン	1名
行動障害児者とその家族へのP B S支援	行動障害の起きる要因と対応	2/26	オンライン	1名
青年部会	清心会が目指す障害者福祉とは	3/22	オンライン	1名

(4) リスク管理

- ア 火の始末の徹底を図り、火災予防に努めました。
- イ 防犯対策の為にホーム周りにセンサーライトやソーラーライトを設置し、抑止効果を高めました。
- ウ 家具の角等にクッションをつけ、利用者が怪我をせず、安心して生活できる環境を整備しました。
- エ 消防署立ち合いにおいて 避難訓練を実施しました。今年度は、火災や地震の他、水害を想定した避難訓練も実施することができました。

(5) 感染症対策

- ア グループホームの利用者8名、職員2名が新型コロナウイルスに感染しました。マスクを外す食事場面では、対面式の食事形態ではなく、個別での食事をとってもらい、感染リスクの軽減に努めました。
- イ 地域でコロナ感染が拡大している時は、必要最低限の外出に留め、公共交通機関を利用しての外出は控えるようにしました。また、マスク、消毒、手洗い等基本的な感染症対策を徹底しました。

(6) 地域交流

- ア コロナ制限緩和にて地域行事のごみゼロ運動や地域総会に参加し、地域住民との交流を図りました。
- イ 新型コロナウイルスの影響で、地域防災活動は実施されませんでした。

(7) 事業運営

- ア 新型コロナウイルスが落ち着いてきたので、短期入所と体験利用の受入れを増やしたところ、短期入所の利用率が前年比38%増となり、収入増につなげることができました。また、短期入所や体験利用から新規入居者を
- イ 新たに3名がグループホーム利用を開始し、利用率、収入UPにつなげることができました。